

授業科目名	動物栄養学Ⅱ	科目コード	2301026		
開講クラス	動物看護師科	コース	動物看護師コース	学 年	2年
担当教員	猪野亜里沙				
	実務経験教員 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ) 実務経験内容 ペット栄養管理士 動物臨床栄養アドバイザー1級 大学卒業後約1年間動物園で勤務 動物臨床栄養アドバイザー1級の受験経験を活かし、また、動物園での動物飼育、看護方法を授業に取り入れている				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	31時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ <input type="checkbox"/> 選択 ・ <input type="checkbox"/> 選択必須		単 位 数	1単位	
使 用 テキスト1	書 名	犬と猫の栄養学			
	著 者	奈良 なぎさ			
	出版社	緑書房			
使 用 テキスト2	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第2巻 基礎動物学			
	著 者	緑書房編集部			
	出版社	株式会社 緑書房			
参考図書	動物栄養学、基本からよくわかる犬と猫の栄養管理				
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ <input type="checkbox"/> 実習 ・ <input type="checkbox"/> 実験 ・ <input type="checkbox"/> その他 ( )				
<p>&lt;授業の目的・目標&gt;</p> <p>動物栄養学Ⅰで学んだ基礎知識を活用して、栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。</p>					
<p>&lt;授業の概要・授業方針&gt;</p> <p>疾病と栄養の関係を学習する。獣医師によって予後診断された中で、動物看護師が栄養学的な管理に関わる疾患について学び、課程での最適な管理を飼い主に指導できる知識を習得する。</p>					
<p>&lt;成績基準・評価基準&gt;</p> <p>前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。</p> <p>通年の評価は、前期と後期の本試験の点数の平均を算出し、その平均点が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とする。</p>					
<p>&lt;使用問題集・注意事項&gt;</p>					

<授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他>  
動物形態機能学Ⅰ、Ⅱ、動物臨床看護学各論Ⅰ、Ⅱ

授業科目名		動物栄養学Ⅱ
回	授 業 内 容	備 考
1	科目概要、学習目標、療法食とは	
2	肥満と食事管理①	
3	肥満と食事管理②	
4	消化器の病気～歯周病①～	
5	消化器の病気～歯周病②～	
6	消化器の病気～食道の病気～	
7	消化器の病気～胃の病気①～	
8	消化器の病気～胃の病気②～	
9	消化器の病気～小腸の病気～	
10	消化器の病気～大腸の病気～	
11	消化器の病気～すい臓の病気～	
12	消化器の病気～肝臓の病気～	
13	腎臓の病気①	
14	腎臓の病気②	
15	前期まとめ	
16	尿路の病気①	
17	尿路の病気②	
18	内分泌の病気～糖尿病①～	
19	内分泌の病気～糖尿病②～	
20	内分泌の病気～高脂血症～	
21	内分泌の病気～甲状腺の病気～	
22	内分泌の病気～副腎皮質機能亢進症～	
23	皮膚の病気～食物アレルギー～	
24	皮膚の病気～食物不耐性、栄養反応性皮膚炎～	
25	心臓の病気①	
26	心臓の病気②	
27	腫瘍	
28	回復期の食事管理	

29	関節の病気	
30	経腸栄養法	
31	後期まとめ	